



2018年12月期
事業報告書 Vol.5

(2018年1月1日～2018年12月31日)



東証一部
証券コード：3902

MDVの想い

2003年8月、あるマンションの地下室でMDVは創業されました。

岩崎(現 代表取締役社長)と浅見(現 専務取締役)、たった2人での船出です。

「僕は、患者や生活者のために、もっと医療情報を有効活用したほうがいいと思う。

そんな環境が今後必ず必要になってくる。

それに、自分のカルテ情報は自分自身で管理するべきでしょう。

自分自身の体のことが自分の手元に無いなんて、おかしいと思いませんか。

浅見さん、医療業界の常識を変えるような会社を一緒に作りましょうよ」

岩崎が浅見に語った想いは、今、MDVグループ社員全員に脈々と受け継がれています。

医療データの活用によって患者メリットを創出する。

患者が自分の医療・健康情報を

自身で管理・閲覧できる社会を創る。

私たちはこの実現に向かい、日々邁進しています。

代表取締役社長

岩崎 博之



メディカル・データ・ビジョン株式会社

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町7番地 住友不動産神田ビル10階

TEL：03-5283-6911 FAX：03-5283-6811

会社概要

(2019年3月26日現在)

会社名	メディカル・データ・ビジョン株式会社	代表取締役社長	岩崎 博之
証券コード	3902	専務取締役	浅見 修二
設立	2003年8月	取締役	柳澤 卓二
資本金	9億9,266万1,739円(2018年12月末現在)	取締役	木村 右子
本社所在地	東京都千代田区神田美土代町7番地 住友不動産神田ビル10階	取締役	井上 太郎
事業内容	医療情報統合システムの開発、製作、販売、保守業務 各種医療データの分析、調査、コンサルティング業務 医療機関向け経営コンサルティング業務 各種医療データの運用及び提供サービス業務 ポータルサイトの企画、設計、開発、運営 職業安定法に基づく有料職業紹介事業(13・ユ・302515)等	役員	取締役 取締役(社外) 取締役(社外) 取締役(社外) 常勤監査役(社外) 監査役 監査役(社外)
従業員数	220名(連結2018年12月末現在)		中村 正樹 加藤 伸博 香月 壯一 中村 隆夫 松本 保範 中川 治 濱田 清仁

Contents

MDVの想い	01
会社概要	02
2018年12月期の業績の進捗について	
Q 業績修正を踏まえ、今期の業績についてお聞かせください	03
Q 今期新しく開始した事業についてお聞かせください	07
Q 来期の計画についてお聞かせください。	09
株式情報	10

業績修正を踏まえ、 今期の業績についてお聞かせください

A かりうじて増収するも
営業利益は前年を大きく
割り込んでしまいました。

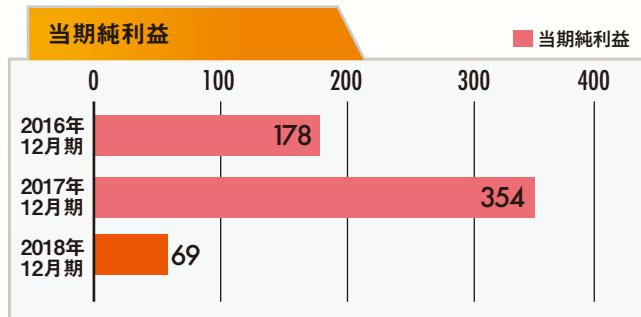
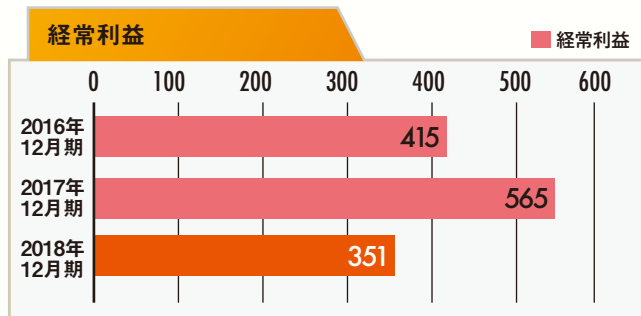
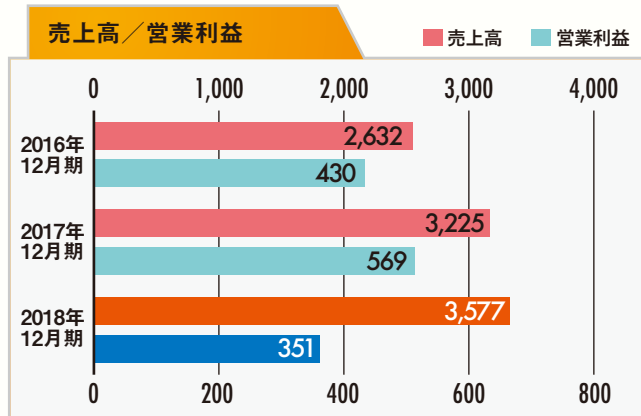
まずは、昨年11月に業績の下方修正を行ったことで、株主の皆様にご心配をおかけしておりますこと、また、皆様のご期待を裏切ってしまったことを、深くお詫び申し上げます。

2018年12月期は、非常に厳しい年となりました。売上高は、3,577百万円（前年同期比10.9%増）とかりうじて前年よりも増収となったものの、営業利益は不甲斐なくも351百万円（前年同期比38.2%減）と前年を大きく割り込んでしまいました。

データネットワークサービスについては、病院向けパッケージ及びCADA-BOXの大幅な受注遅れが要因となり、1,467百万円（前年同期比6.6%減）となりました。

一方で、データ利活用サービスは、特に製薬メーカー向けの分析サービスに対する堅調なニーズにより、2,110百万円（前年同期比27.6%増）と着実に売上を伸ばしております。ただし、データ利活用サービスに関する事業を展開する子会社、MDVコンシューマー・ヘルスケア社及びMDVトライアル社においては、いずれも事業進捗に遅れが生じました。MDVコンシューマー・ヘルスケア社においては、2019年1月15日に発表申し上げたとおり、今後の安定的な収益が見込めず、成長事業への転換が困難であると判断し、同事業からの撤退を決定しております。

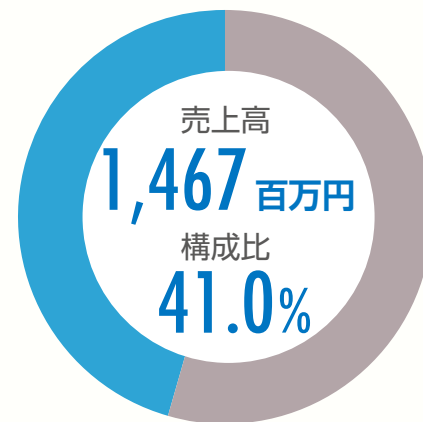
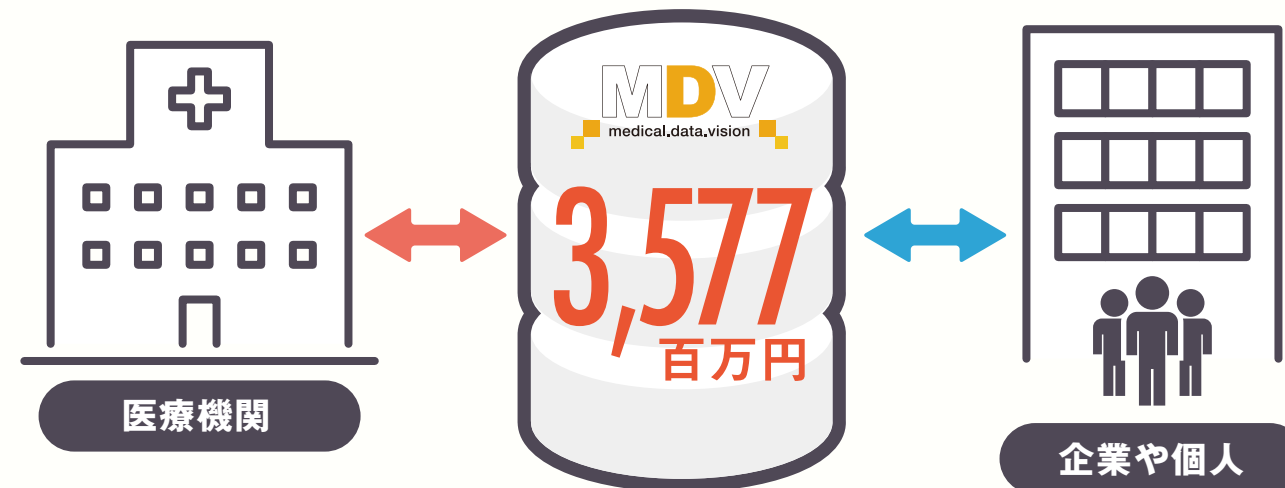
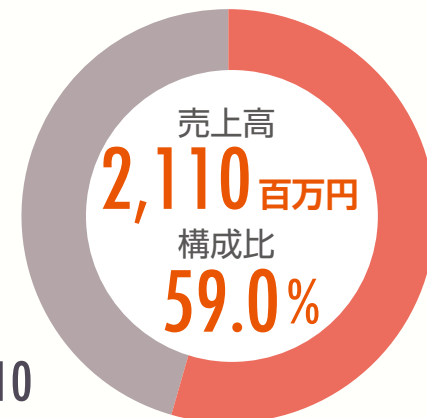
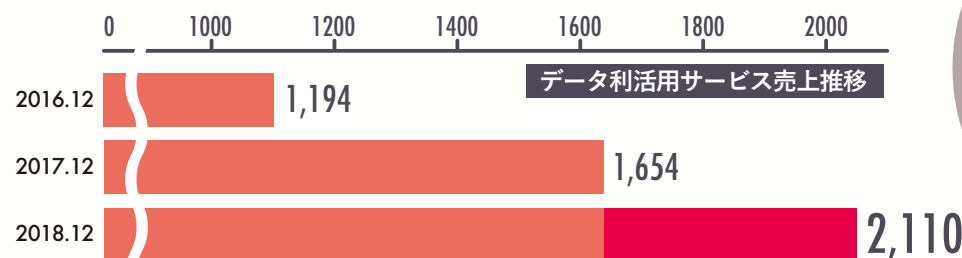
今後は、まずは早期に業績成長の回復へ目処を付け、皆様のご支援に応えられるよう努めてまいります。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



(単位：百万円)

データ利活用サービス

蓄積した医療・健康情報を活用し、各種分析サービスを提供



データネットワークサービス売上推移

システム提供を通じて医療・健康情報を蓄積

データネットワークサービス

業績修正の背景

1 「CADA-BOX」の受注遅れ

今期新規受注目標 24 病院に対し、
新規受注は 3 病院

2 子会社の事業進捗遅れ

MDV コンシューマー・ヘルスケア社

- 「KISOU」の売上計画が大幅に遅延
- 売上原価として「KISOU」及び「デコルケア」に係る商品評価損を134百万円計上

注)2019年1月15日に「連結子会社の事業の全部の廃止に関するお知らせ」で発表いたしましたとおり、当該子会社の事業は廃止いたします。

MDV トライアル社

医療データベースを活用した治験業務の実施準備に
想定以上の時間と人員を要したため、営業活動に遅れ

3 パッケージの受注遅れ

営業人員の戦力化に遅れ

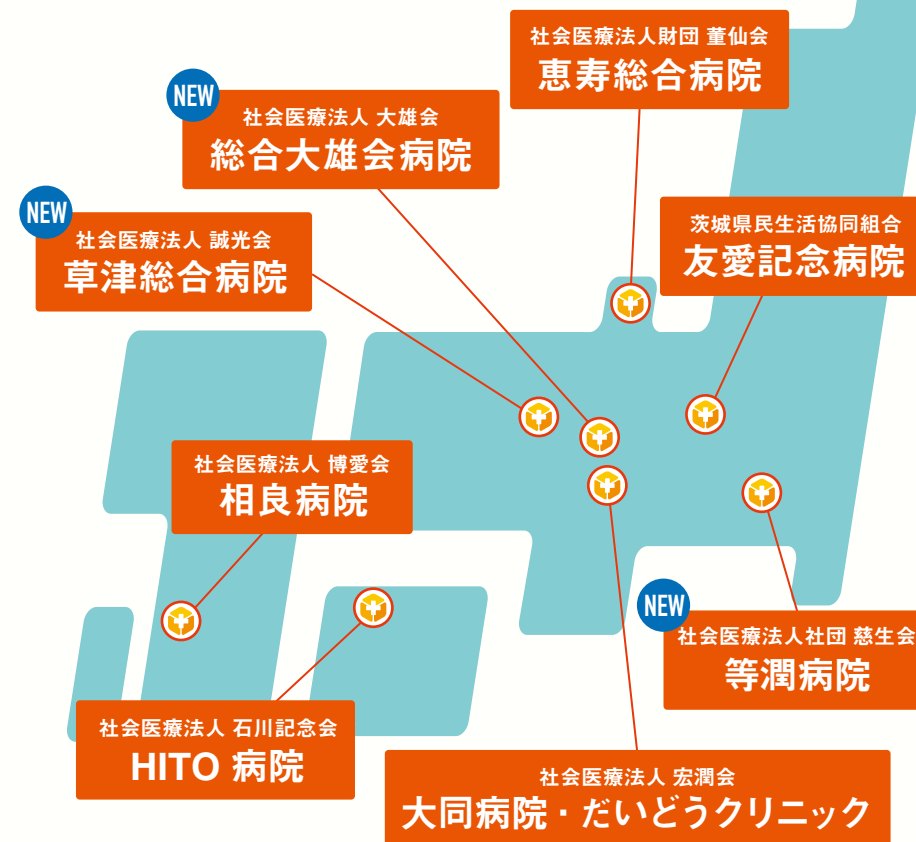
業績予想の修正
2018年12月期

	修正前業績予想	修正後業績予想	2018年12月期実績
売上高	4,700	3,500	3,577
営業利益	799	208	351
経常利益	800	208	351
当期純利益	491	0	69

CADA-BOXの導入病院について

CADA BOX

導入病院



今期は24病院への新規導入計画に対し、3病院からの新規受注で終わりました。

病院の皆様からのCADA-BOXへの期待は引き続き高いものの、実際に院内での導入稟議が進む過程で、費用対効果をはじめとするエビデンスを当社が提示しきれない状況がネックとなり、最終決定までに時間がかかっているのが現状です。

エビデンスとは、例えばCADA決済を利用した際の病院の各種コスト削減実績が挙げられます。

しかし、既存の導入病院での利用期間が短いためエビデンスとして出せる実績がまだ揃っていません。当社としては、早期に導入病院における利用実績を出すのはもちろん、並行して、コンセプトへの共感で早期に導入決断をしていただけるような、経営感度の高い理事長や院長へのトップ営業を強力に推進しているところです。



今期新しく開始した事業について お聞かせください

A 検診・健診を手始めに、未病領域のデータ取得に着手しました。

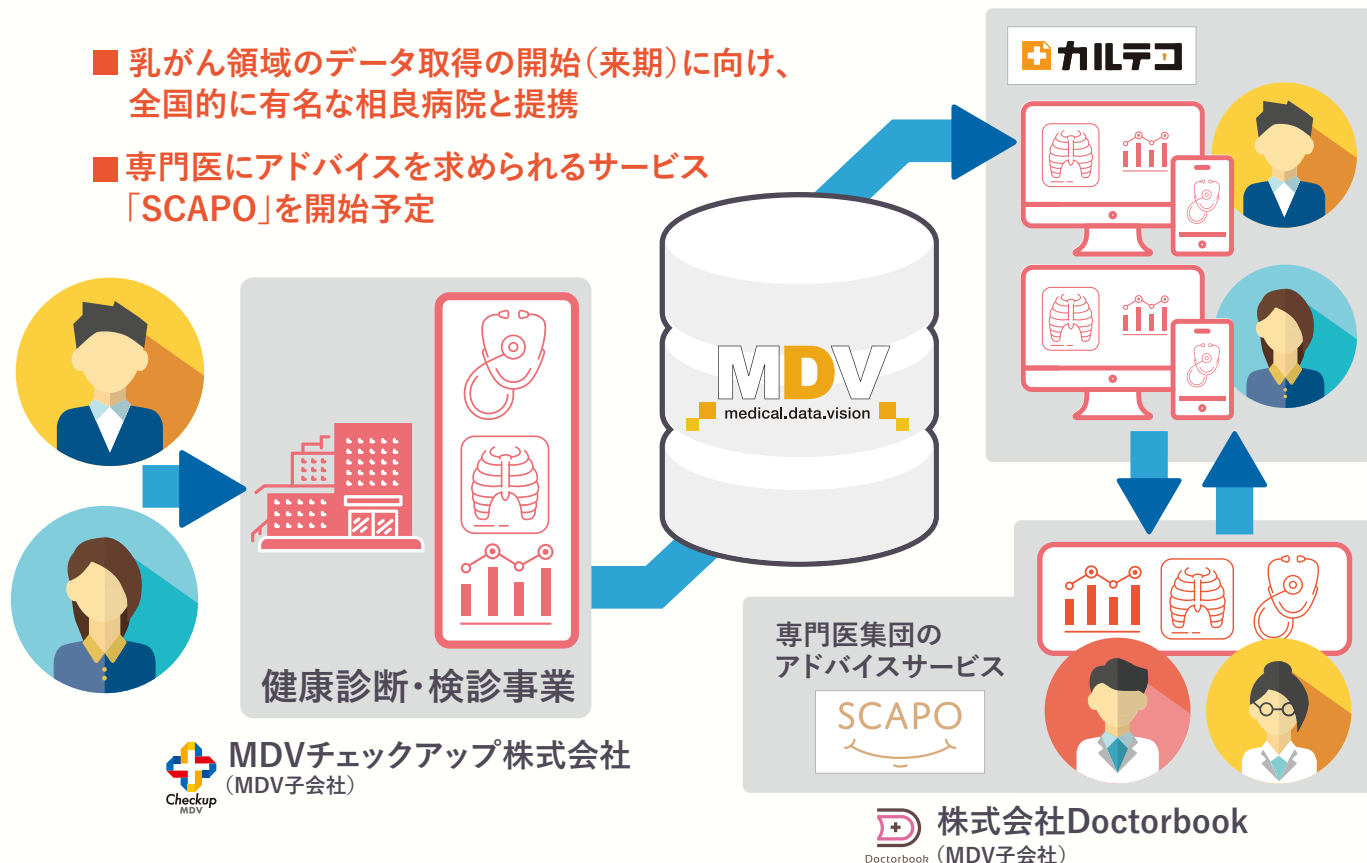
当社は従来より、主には病院から集積した診療データベースを活用してまいりましたが、より多様な医療ビッグデータの利活用を実施するため、検診・健診を手始めとして未病領域のデータ取得に着手しました。

データ活用の第一弾として、受診者が自身の検診・健診データを閲覧できるほか、その結果に関する専門医のオンラインも得られるサービスを展開する予定です。受診者が最初に受けた診察の内容に関する解説や、希望があれば検査画

像の評価などのサービスも有料で受けられます。病気の早期発見・早期治療を目的とした医療機関での受診・治療を促し、増大する医療費の適正化に貢献すると確信しています。

■ 乳がん領域のデータ取得の開始(来期)に向け、全国的に有名な相良病院と提携

■ 専門医にアドバイスを求められるサービス「SCAPO」を開始予定



MDVチェックアップ株式会社
(MDV子会社)

株式会社Doctorbook
(MDV子会社)

Interview

「CADA-BOX」導入病院の声 相良病院 相良理事長にインタビュー



さがらウィメンズヘルスケアグループ 代表
社会医療法人博愛会 理事長

相良 吉昭

さがら よしあき

1997年に川崎医科大学卒業後、鹿児島大学附属病院を経て相良病院に入職。2015年、さがらウィメンズヘルスケアグループ代表に就任。国内唯一の乳がん領域のがん診療連携拠点病院の理事長として、医療の質はもちろのこと、患者ががん向き合える環境作りに入力している。一人でも多くの人が乳がん検診やケアを受けられるよう、霧島、館島、屋久島、徳之島、奄美大島、沖永良部、与論島などの鹿児島県の僻地・離島各地にて乳腺専門外来を開設。東京においては、遠隔画像診断^{*1}を行う「SWHG東京」を開設している。

Q CADA-BOXを導入した背景を教えてください。

当院は、予防から検診、治療、緩和医療まで一貫した医療体制を整えており、特に乳がん領域の専門病院として全国的な評価を得ています。5大がん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん)を網羅的に扱っている病院が指定されることが多い中、相良病院は、2014年に全国で唯一乳がん領域で「特定領域がん診療連携拠点病院^{*2}」に認定されました。

予防から治療後の緩和医療までの長期的なトータルケアを行うためには、患者さんと医療従事者が情報を共有し、両者で治療方針を決め、共に病気と向き合っていくことが大切です。患者さんは、がんと診断された瞬間から、がん向き合いながらの人生がスタートします。治療や療養を続けるなか、いろいろな場面で大きな判断が必要になってきます。「CADA-BOX」の一機能である「カルテコ」があれば、患者さんは自分の状況をいつでもどこでも見つめられるようになります。そういった時間をもったうえで、患者さんと医師が一緒になって、その時々での選択・決断をしていくことは双方にとって有益になると考え、この仕組みを導入しました。

*1 遠隔画像診断とは

パソコンやスマートフォンなど、リアルタイムでのコミュニケーションが可能なオンラインシステムを使って行う診療のことを指します。

*2 特定領域がん診療連携拠点病院とは

“特定のがん領域について高い診療実績があり、都道府県内で拠点的役割を果たす病院”として都道府県の推薦を受け、厚生労働大臣が指定した病院のことを指します。

来期の計画についてお聞かせください。

A 来期は「出直しの年」です。

来期は「出直しの年」と位置づけ、CADA-BOX導入、子会社の黒字化をメインテーマに、売上高4,250百万円(前年同期比18.8%増)、営業利益500百万円(前年同期比42.2%増)を目指します。

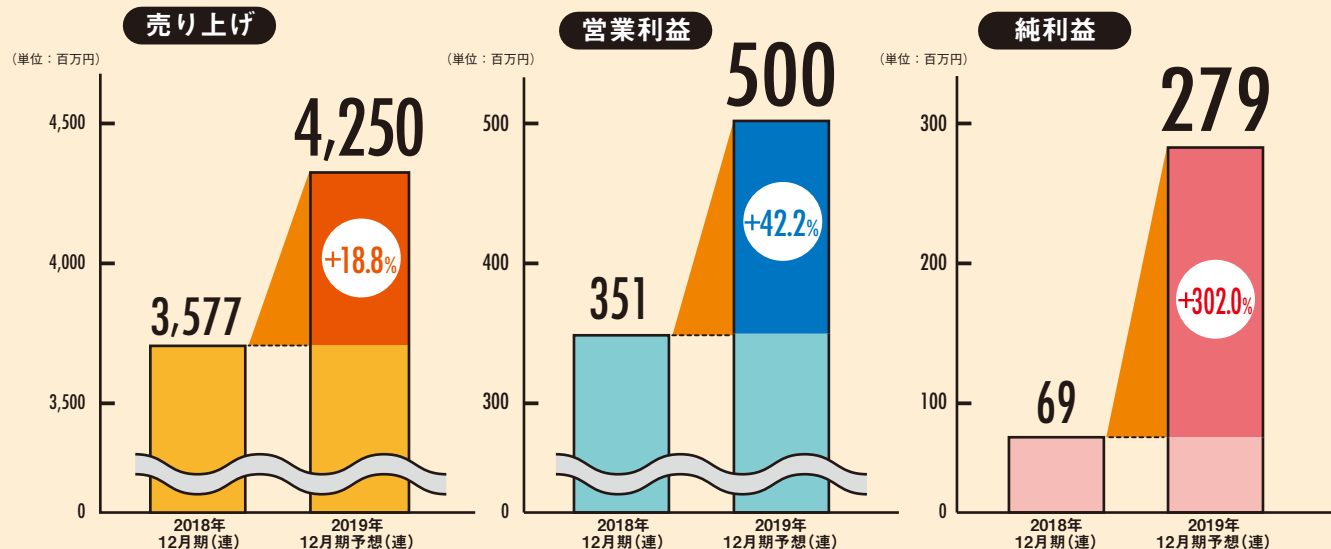
まずは何よりCADA-BOXです。創業以来、病院向け商品やサービスをローンチすると必ず、「とてもいい商品だ。でも、導入実績が増えてからまた営業に来てくれ」と言われ続けてきました。そして、一

定水準の導入数を超えると爆発的に普及するのです。CADA-BOXは今まさにこのフェーズです。今は、コンセプトに共感して下さる病院をしっかりと開拓していくことが重要です。

次に子会社の黒字化です。大きく売上・利益に貢献するのはまだ少し先になりますが、特に注力するのは、治験を推進するMDVトリアル社と医師をネットワークするDoctorbook社です。治験に

ついては、遅れていた準備も今期完了しており、あとは実業務を積み上げるのみです。幸いなことに製薬メーカーからの関心は高く、高い成長が期待できる分野だと確信しています。Doctorbook社については、今年開始した検診・健診事業と連携しながら、また、1月に発表したメディカル社との協業を進めながら、事業展開していきます。

2019年12月期の業績見通し



Stock Information

株式情報 (2018年12月31日現在)

株式の状況

発行済株式の総数	40,027,526株
株主総数	6,585名

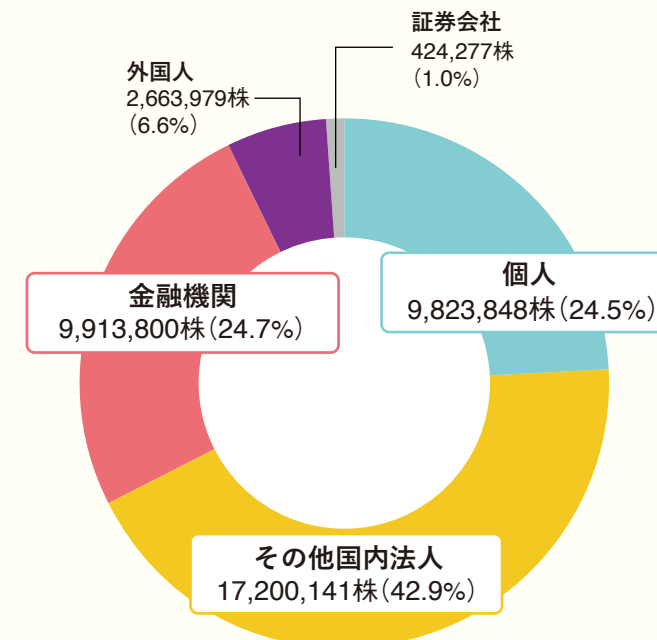
大株主の状況

株主名	所有株式数の割合
富士フィルム株式会社	28.2%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	13.3%
株式会社メディカルホールディングス	8.0%
鈴木 隆啓	3.8%
三菱商事株式会社	3.1%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2.9%
岩崎 博之	2.8%
シミックホールディングス株式会社	2.3%
山口 貴弘	2.3%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1.9%

株主メモ

事業年度	毎年1月1日～12月31日
定時株主総会	毎年3月開催
基準日	12月31日 (そのほか必要がある場合は予め公告いたします)
株主配当受領株主確定日	12月31日 (なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は6月30日)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
単元株式数	100株
公告方式	電子公告により行います。 URL : https://www.mdv.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社

所有者別株式分布状況



※円グラフの数値は小数点以下第2位を切り捨てているため合計が100%にならない場合があります。

同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 受付時間	0120-782-031 (フリーダイヤル) 土・日・祝日を除く9:00～17:00
ホームページ URL	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
優待	毎年12月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上保有されている株主様に対して、一律QUOカード1,000円分を贈呈いたします。



MDV
medical data vision